

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1070201825
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホーム さんご
所在地 (電話番号)	群馬県 高崎市 石原町 4273-1 (電話) 027-324-3525
評価機関名	はあとらんど
所在地	群馬県 前橋市
訪問調査日	平成 20年 10月 9日

【情報提供票より】(20年 9 月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 2月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造り 平屋建て	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9 月 22日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2		名	
要介護3	6	名	要介護4	3	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	88.5 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いわた内科クリニック 吉井歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地に立っている事業所で地域との関係が良好に築かれている。グループホームの利用者は地域のいきいきサロンに出掛け、地域もグループホームの利用者を快く受け入れている。事業所側はグループホームを地域に理解してもらうために運営推進会議、「さんご便り」などを用いて地域へ働きかけてきた。その成果が今の関係に繋がっている。職員は利用者の自分らしい生活を大切にしたい支援を行っており、居室作りには個人の生活歴等が配慮され、飾りつけなどにその人の個性が表れている。施設は河川の近くにあり、散歩時には川風を肌で感じる事が出来るなど自然に恵まれた環境に立地している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義の理解と活用では職員全員で取り組み共有を図っている。鍵をかけない取り組みは家族からの意見もあるが、職員は鍵をかける弊害を理解しており今は開錠している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議で話し合い全員で取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催されている。事業所からは運営者、管理者、利用者、利用者家族等が参加している。事業所からは状況報告などしている。会議の中で家族会の連絡網が出来上がった。参加者同士の情報交換の機会となっている。保育園児との交流が実現した。地域の行事の誘いなどもあり利用者の外出支援につながっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者、職員は家族の訪問時には意見や要望を聞くようにしている。家族会が今年から出来て家族会の代表者も決まって意見を出しやすいように配慮している。運営推進会議にも家族は参加している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	事業所と地域との関係が築かれており、地域の人達との交流にグループホームの利用者も地域の一人として参加している。近所の人からの野菜の差し入れなどがあったり、散歩の時には声を掛けたり交流が出来ている。地域の祭りや道祖神の祭りなど利用者も参加している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で理念を考え地域密着型の理念を作成した。理念は職員が共有しサービスに活かしている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員会議や家族会議などで話し合われて、職員、利用者、また家族にも共有されている。日常の支援の中で迷った時には理念に立ち返りながら確認し、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、会費も支払っている。地域のしきたりに従い班長を務めたり公園の掃除にも参加している。回覧板が回ってきて地域の情報が得られ利用者の外出の機会を多くしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を管理者・職員は共有している。今回の自己評価は職員会議や勤務の合間など時間を見つけて話し合い、管理者がまとめて作成したものである。外部評価の結果は推進会議、家族会にも報告されている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催されている。介護相談員からの提案により家族会の連絡網が出来た。また民生委員の提案より地域の保育園との交流が実現した。運営推進会議により地域との係わりがより深くなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市担当者を訪ね施設の入居状況の報告やボランティアの依頼をする等、市との情報交換を行って利用者のサービスの質の向上に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には健康面、近況などを報告している。体調の変化があった時などは電話で連絡を取り管理者は早めの対応を心がけている。年4回「さんご便り」を作成して家族に報告している。職員の異動なども家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見を言いやすくするにはどうしたら良いかを検討し、施設側より家族の方に働きかけて家族会が結成された。今年の初めに代表者が決まり家族会が動き出している。管理者は常に家族からの意見を聞く姿勢を持ち、家族とは意見を表出しやすい関係を作る事を心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動は少なく抑えるよう心掛けている。家族の面会時には退職・入職者の紹介をしている。家族会にも異動があった時には話をしている。利用者には新しく入った職員を紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を研修に積極的に参加させている。法人研修、地域密着型連絡協議会の研修、実務者研修など交代に研修参加をしている。職員はグループホーム大会、交換研修、感染症予防、口腔機能改善、研修など参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入している。そこでの交換研修などを通して同業者との交流をしている。また西毛ブロックの活動にも参加し、情報交換を積極的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と利用者に施設を見学してもらい納得してから利用に結び付けている。見学時には職員はコミュニケーションを多く取り早く馴染んでもらうように気を配っている。また職員は散歩なども一緒にしたりして利用者の不安感をなくすようなサービスを心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔の味付けなどを実際に手伝ってもらいながら教えてもらっている。季節の行事の材料、飾りつけなども教えてもらい実践している。地域の風習などを通し利用者と職員は共に教えあい支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の気持ちを把握しようと話をよく聞く事につとめている。またコミュニケーションの取りにくい利用者に対しては動きに気を配り、いつもと変化が有るか無いかよく観察している。表情にも注意をし、会話をしている。また家族から過去の生活、希望など情報を聞く事により本人の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は本人や家族の意向を聞き取りケアマネを交えた職員会議にかけ計画を立てている。ケアマネは家族に確認を再度取っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状況の変化に応じて実施している。状況の変化は経過記録に細かく記録されている。見直しは職員会議にかけられ、家族に了解を得て計画の変更がなされている。	○	介護計画の遂行状況、効果を評価するとともに、経過記録に基づき月1回のモニタリングを実施される事が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の地域いきいきサロンへの参加支援、買い物、レストラン、そば屋などへの同行など利用者の要望に沿った支援をしている。また受診の時に送迎の支援などをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の希望を聞き決めている。主治医が遠方であったりする時は家族の了承を得て協力医に変更する場合もある。月に2回の協力医の往診があり家族への報告もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議でも取り上げられ、話し合いを重ねている。管理者は家族からの相談はいつでも出来るという状況を心がけている。医療の連携もあり家族の希望を取り入れたいと指針を作成している。指針は管理者、職員、家族、地域と共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人は職員入職時に研修を行い、プライバシーについて職員への教育を行い質を保つように勤めている。職員は利用者への声掛けなどに気を配っている。個人情報に関しても書類など他人の目に触れない所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の時間に合わせた一日の流れを職員は支援している。日課は食事の時間はおおむね決められているが、その他は自由に過ごす事が出来るよう個別の支援がある。利用者は散歩したり、花を世話したり、自由にしている。夜も7時～10時まで個人個人のリズムに合わせた就寝支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は調理の下ごしらえ等共同で行っている。また下膳、食器拭きなど利用者が手伝っている。食事のメニューには利用者の希望が取り入れられている。利用者の中には家族から牛乳を飲ませて欲しいと希望があり飲んでいる人もいる。職員は利用者と共に食事を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制が出来ている。職員は入浴拒否のある利用者に対しても週2回以上であるよう記録で確認しながら支援している。随時の入浴にも対応が出来るようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味、健康状態などにより個別の役割支援がされている。モップ掛け、新聞取り、台ふきん作り、茶碗拭き、漬物作り、など利用者は役割を持っている。季節の行事、職員による演奏、ケーキ作り、ドライブ、買い物、散歩、花摘みなど楽しみの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿いながら個別の支援がされている。せんべいの好きな人はせんべいを食べに出掛けている。買い物や散歩など外に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族からは表玄関の鍵をかけたほうがよいのではないかという意見が出た。管理者、職員は鍵をかける事の弊害を理解していて家族にも説明を行って、目配りが出来ない時間だけ表の鍵をかけ、通常は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の訓練を行っている。1回は消防署にも協力を依頼し避難訓練、1回は自主訓練を行っている。災害に対しての危機感が職員に共有されている。近所の家に対して協力依頼が出来ている。また運営推進会議の話題にも取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員はカロリー、食事、水分等に気を配り支援を行っている。食事量の記録はあるが水分の摂取記録はされていない。	○	高齢者にとって水分量の把握は健康の維持に大切な記録であるので、水分量の記録を取り、健康面に配慮した支援を行う事を心がけてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には椅子が用意されていて訪問者が気兼ねなく入れる雰囲気が作られている。訪問者が事務所に声を掛け易い設計になっている。テーブル、椅子、テレビなどが居間にあり壁には写真や利用者の手作り作品が飾られている。窓ガラスは2重になっていて明るさ、温度等調節されて快適に過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと寝具は施設の物が貸し出されている。テーブル、椅子、写真、お花、作品(書道)着物などが飾っており、一人ひとりの生活暦がにじみ出て、個性のある部屋となっている。		